

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271400980		
法人名	社会福祉法人 南有会		
事業所名	グループホーム 望		
所在地	南島原市南有馬町丁306-1		
自己評価作成日	平成29年10月5日	評価結果市町村受理日	平成29年11月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1
訪問調査日	平成29年11月2日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気の中で過ごして貰えるように力を入れている。又 近隣の方にも気軽に立ち寄って貰えるよに日々頑張っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

窓からはレタス畑が見渡せ、長閑な場所にあるホームである。玄関の横にはスロープがあり、車イスでも出入りし易いよう配慮されている。運営推進会議のメンバーである自治会長から様々な地域の情報を提供してもらいながら町内の清掃に参加したり、高校生のインターンシップの受け入れや地元の浮立の神輿が来訪するほか、敬老会にはフラダンス同好会、ひよっこ踊りの慰問があり、食事を一緒に楽しめるなど、地域との交流を深められている。管理者が看護師資格を持ち、入居者の日々の体調管理に留意され、状態の変化に対しては早期発見・対応に努め、主治医とも連携されていることが窺える。理念は食堂に掲示して職員間で共有化を図り、入居者を人生の先輩として尊重するよう支援を行い、1日の流れに柔軟に対応し、個々のニーズを優先しながら介護実践に取り組むよう努められているホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

ユニット名 グループホーム 望

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員が理念を実践に活かせるよう、常に目につく所に掲示している	理念をリビングに掲示し、職員間で共有化が図られている。入居者を人生の先輩として尊重し、1日の流れに柔軟に対応しながら一人ひとりのニーズを優先した介護実践に取り組むよう努められている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所のスーパーへ一緒に出かけたり、お祭り等に参加するなど地域との交流を心がけている	自治会には加入していないが、運営推進会議メンバーである自治会長から情報提供があり、町内の清掃に参加したり、浮立の神輿の来訪などもある。また、高校生のインターンシップの受け入れのほか、敬老会にはフラダンス同好会・ひよっこ踊りの慰問があり、一緒に食事をして楽しめるなど地域との交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方から認知症についての相談を随時受け付けている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に会議を設け、サービスの現状を報告し、参加者から意見を頂いて、ケアにいかしている	年6回運営推進会議が行われており、家族の出席も窺える。会議内容は事業所での介護の取り組みや行事等の報告、参加メンバーの意見・要望などが出され、ホームの介護サービス向上に活かすよう努められている。。	
5	(4)	○市町村との連携 2017/11/2	運営推進会議のメンバーである行政担当者 と話しやすい関係にあり、他事業所の取り組みや情報をもらっている	運営推進会議に地域包括センター職員の参加があり、事業所の状況や介護の取り組みを知らせるなど情報交換がなされている。公的制度を利用する入居者の手続きを福祉事務所と協力し、取り組まれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしない事を当たり前と考え、そのためにはどうすればいいのか、随時話し合いを持ちながら取り組んでいる	日中、玄関の施錠はしてない。外出しようとする入居者には付きそって対応されている。建物の構造上、見通しがきかない部分がある為、離設や怪我のないように職員は見守りし、入居者の状態に応じてなるべくセンサーを減らしていく支援に取り組むよう努められている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日々のケアの中で今の言葉は？態度は？とお互いに注意合いながら防止に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護を活用している入居者がいないので経験した事がない 勉強会や研修等で熟知する必要がある		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者家族が理解し納得できるよう、時間をかけて説明している		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホームに意見箱を設けているが活用される家族は少ない 面会時の会話の中でさりげなく聞き出せるようにしている	運営推進会議には家族の参加が窺える。4月の花見行事には家族2名が参加されたり、風船バレーボール大会に家族も一緒に参加し楽しまれ、車イスの乗降を手伝ってもらおう等、運営に反映するよう努められている。	連絡ノートは、申し送り時に入居者・家族の意見・要望などを記録して、職員間で回覧し押印がなされている。現状では6月以降の記録がないので、今後職員間で共有する為にも連絡ノートに記録を残しておくことを期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議を定期的に行い、職員の意見を反映させている	事例として、車イス利用者が玄関に雨除けが必要との職員の意見があり、屋根を設置したり、居室に入室する際に車イスが入りにくいので役員に相談し、壁を壊して入口を別に作り支援をしやすくするなど、職員意見を運営に反映したことが窺えた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が提案した事は代表者まで届き改善に繋がっている それがやりがいや向上心につながっている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修案内はいつでも見れるように掲示している 勤務状況を調整しながら研修が受えられるようにしている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に加盟し、情報交換の場としたり、研修会も交流の場ととらえている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前から面談し、本人の思いを傾聴する事で信頼関係づくりに結びつけている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前から面談し、困り事や不安な事を聞きだし早い段階から要望に応じられるようにしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	今、何が必要なのか面談の中で得たものを活かし他のサービス利用も検討しながら対応している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	何かをして貰った後は、ありがとうやおかげ様で助かりましたの声かけを忘れないようにしている。そうすることで支え合う関係に繋がっている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と利用者がこれまで以上にいい関係が築けるよう、時には間に入り話をしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの美容室への送迎や馴染みの場所へ同行し関係が途切れないように支援している	家族や友人が面会に来た際は、居室または面会室で、ゆっくりと話ができるように配慮されている。携帯電話を持っている入居者には適宜管理をしながら、携帯電話で話ができるように支援するなど、馴染みの人と関係が途切れないよう努められている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者が孤立しないように間に入り調整役をするよう心がけている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても必要に応じて情報提供を行い家族や本人との継続的な関係が保てるよう努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人がどうしたいのか考え、生活歴と合わせて提案し検討している	一人ひとりの思いや意向の把握は、入居者の表情や状態を見て、声掛けを行い支援に努められている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族の協力を得ながら生活歴の把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その日の体調等を見極め、出来ることを支援しながら過ごしてもらっている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議を通じて、又は面会時等を活用して意見を反映させている	本人の心の状況、できる事・できない事等をアセスメント表に記録されている。ケアプラン案を立て、職員会議で職員と話し合い、管理者がチェックして本人又は家族に説明し、署名捺印を得ている。ホームへの来所が難しい家族には、電話等で説明し、同意を得て、面会できる時に捺印されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録をモニタリングする事で、次の介護計画に活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要に応じて支援内容を変更し、その時に必要なサービスが提供できるよう努力している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	車椅子散歩等を通じて、近隣の方とふれあい、時には買い物に出かける事で楽しみにつなげている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時に家族や本人と話し合いかかりつけ医を決めている 主治医との連携も大切にしている	本人や家族の希望があり、職員対応で受診支援が行われている。協力医の往診も可能である。管理者が看護師資格を持ち、入居者の日々の体調管理に留意され、状態の変化に対しては早期発見・対応に努め、主治医とも連携されていることが窺える。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	一職員が看護師であるため、日々のかかわりの中で介護職と連携が出来ている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は面会に行き、入院先の看護師等と情報交換し関係作りをしている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	予測出来る段階で家族と話し合いをして方針を共有できるようにしている	今まで看取りの経験はないが、病状が重度化、看取りの状態に至った場合は、医師や家族と相談し、連携して対応するよう努められている。	入居者が重度化されるまでの職員の対応はできているが、看取り期における研修の機会が十分とは言えないので、今後、積極的に外部や内部研修を受講し、職員間で共有していくよう今後の取り組みに期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時の対応が素早く出来るよう勉強会や訓練の機会を増やすよう努めている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	火災訓練時は地域の消防団分団と協働して行っている 火災を未然に防ぐために点検簿を活用している	火災避難訓練を消防署立ち会いのもとで行ったり、夜間を想定した自主訓練を行っている。職員は、火災時の役割分担や対応などを把握されている。重度化した入居者の避難方法として、手作りタンカーを使用し、職員が代役となり避難訓練が実施されている。	地震・風水害対策が記載された防災マニュアルが作成されており、台風接近時の避難場所への避難訓練を実施されている。現状では地震想定訓練が実施されていないので、今後実施することに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の意思を尊重し、プライバシーが守れるようにさりげないケアを心がけている	接遇マナーについての心構えを食堂に掲示し、全職員が、誇りやプライバシーの確保について常に確認し合うよう努められている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	選択肢を設けたり、生活歴を踏まえながら声かけをして自己決定ができるよう努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日のおおまかな流れはあるが、起床時間や昼寝の時間など、本人のペースを大事にしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好みの服が着れたり、好きな化粧が出来たりと支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しみになるよう、好みのメニューを取り入れたりしている 準備や片づけは出来る範囲で一緒にしている	献立は1週間分ごとに立て、入居者の状態に応じて、刻み・トロミ・ミキサー食等を提供し支援に努めている。パーベキューを屋外で行い、気分転換をし、食事や花火を楽しまれることもある。入居者の残存能力に応じ、テーブル拭き・洗濯物たたみ・新聞紙を1枚ずつ折る等、職員と一緒に手伝ってもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量や水分量は記録にして把握している お茶が飲めな時は甘い飲み物に変えたりしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一日三回の口腔ケアが不十分なので取り組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を活用しながら、昼間はトイレ誘導している 又、夜間もポータブルトイレが使えるれば介助している	昼間は時間を見てトイレに誘導し、排泄できるように支援に努められている。夜間は、ポータブルトイレを使用し対応できるよう配慮されている。失禁時等は、洗浄をし衛生面に配慮するよう努められている。リハビリパンツは適切なサイズに適宜見直しながら対応されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	イモ類や乳製品、温野菜等を取り入れ便秘予防に努めている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴したい時に入れるようにしている 入浴剤をいれたり菖蒲湯をしたりしている	入浴日は、週2回午前中に、入浴されているが、希望や必要に応じて入浴できるよう支援されている。重度の入居者は、2人介助でリフトを使用し、危険のないように注意しながら支援されている。入浴剤を入れるなど入浴を楽しんでもらえるよう支援がなされている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間不眠の利用者は昼間レクリエーション等で覚醒を促したり、外出して気分の転換をはかり安眠につなげている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員看護師と連携するなかで、症状の変化の把握に努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの得意な事等を把握し日々の暮らしに活かしている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の状態に応じて戸外に出たり、家族と外出が出来たりしている	希望に応じて、近くのスーパーに職員も同行し、買い物をするなど外出支援を行っている。家族と共に外出・外泊をすることもある。天気の良い日は、駐車場や庭で日光浴をするなど楽しまれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を使うことが出来る利用者は自由に使えるようにしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙を代筆したり、携帯電話の充電を確認したりしている(携帯電話 持参の利用者あり)		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の好みの場所や馴染みんでいる場所を把握し、不安や混乱をまねかないように気をつけている 玄関や居間に季節の花を飾ったりしている	玄関の横にはスロープがあり、車イスでも出入りし易いよう配慮されている。浴室に続く廊下は狭いため、車イスの方は注意して通るように配慮されている。真夏に居室と廊下の室温の差が大きいため適宜エアコンを使用し、室温の調整をして居心地よく過ごせるよう配慮されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人ひとりの好みの場所が自然とできている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用し馴染んだ物を持ちこんでもらっている	入所時に持込み品等について説明し、整理ダンス・テーブル・掛け時計・手鏡・写真・カレンダーなど、馴染みの物を持ちこむことができる。また、本人の趣味を活かして絵を描いて飾るなど、その人らしく暮らせるよう居室づくりへの工夫がなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者が安全に生活できるよう、その時その時の状況に応じた環境整備をおこなっている		